

令和 7 年度第 2 回島本町立第二中学校 学校運営協議会レジュメ

1. 日 時 令和 7 年 1 1 月 2 1 日（金） 1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0
2. 場 所 島本町立第二中学校 3 階 図書室
3. 次 第

(1) 1・2 学期の取組について

(2) 学校教育自己診断結果について

(3) その他

キャリア教育の発表

2 年生 令和 7 年 12 月 19 日（金） 1 3 : 3 0 ~ 本校 体育館にて

1 年生 令和 8 年 1 月 16 日（金） 1 4 : 0 0 ~ 島本町役場 議場にて

次回の日程 2 月 2 7 日（金） 1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0
場所：第二中学校 3 階 （ 図書室 ）

令和7年度 島本町立第二中学校 学校教育自己診断 ガイド

1. 学校の生活について

生徒会活動について

- ・生徒会では、「自他を大切にし、安全・安心の学校づくりをめざす」をテーマに行事などの運営や準備、進行などを中心に活動しています。
- ・校則の見直しなどを行い、より良い学校生活をめざす「二中レボリューション」活動を行っています。活動を通して校則への理解が進みました。



- ・生徒同士の主体的なつながりの強化と SDGs「17. パートナリシップで目標を達成しよう」に貢献することを目的とした「二中相談室」を行っています。活動することにより生徒の自己肯定感及び自己有用感の涵養に繋がっています。
 - ・目安箱を活用し、広く全校生徒の意見を集め、より活発な校内環境の改善をめざしています。
- ～校内教育支援ルーム(たけのこルーム)設置について～
- ・令和5年度より、校内教育支援ルーム「たけのこルーム」を設置しています。ルーム設置により生徒の自己肯定感を高め、新規不登校者数が減少しています。



2. 「確かな学力」の育成について

自分の考えを深めたり広げたり表現できる生徒の育成や、探究的な学びのある授業実践について研究し、「主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫」に取り組んでいます。

10月29日に、校内の研究テーマに沿った校内研究授業を行い、1クラスの授業を全教職員で参観、その後に研修会を実施しています。テーマに沿った研修を通して全教職員で授業改善に努めています。また、校内の研究テーマに沿った工夫した授業を全教職員が行い、その授業を教職員どうして授業参観し、意見交流する取組を行っています。11月7日(金)の学校公開でもそうした授業の様子をご参観ください。

3. ICTの活用について

各教科の授業や総合的な学習の時間で、タブレット端末を利用した調べ学習やプレゼンテーションソフトを使った発表を行っています。授業や宿題での課題学習や自宅での自主学習に、eライブラリを使用しています。また、授業では、プロジェクターを使用して、資料などを生徒に提示して授業を進めるなど、

教員のそれぞれが工夫をして ICT 機器の活用し、わかりやすい授業づくりに取り組んでいます。

4. 成績・評価について

各教科の評価規準は第二中学校ホームページに掲載しています。授業でも、年度初めの時期に評価基準を説明するなど、必要に応じて、生徒に向けて評価について説明しています。また、今年度は1学期末に、評価についてと通知表の表記について説明した「通知表の見方」を配付しました。引き続き、わかりやすい成績・評価の説明を行ってまいります。

5. 自学自習について

テスト 1 週間前の放課後に、島本町の学習ボランティアの方の協力のもと、テスト前学習会を実施しています。学習会では、学習内容や学習方法を生徒自ら決定して学習を進めています。わからない所は教師やボランティアの方が学習支援し、生徒どうしの教え合いをしながら取り組み、自ら進んで学習に取り組む姿勢を養っています。

テスト前には、5 教科のテスト対策プリントを配付し、テストに向けた学習のサポートをしています。また、自主学習には、e-ライブラリの利用を進めています。

6. 読書活動の推進について

- ・「読書の木」(図書委員のすすめ本の紹介＋全校生徒にも呼び掛けて作れるキット)を学校の図書館に設置しています。

- ・「ブックリスト」(先生方のすすめ本の紹介)を図書委員がタブレットを使って電子データにてリストにし、TEAMS で共有をしました。

- ・「POP 作り」(図書委員＋全校生徒にも呼び掛けて作れるキット)を図書館に展示しています。大阪府のコンテストに応募し、3名が入賞しました。

- ・図書の「スタンプラリー」などのその時期ごとのイベントを行い、図書館への来室をすすめています。図書便りを発行して、図書委員会の取組を紹介しています。

- ・図書キャラ(新一年生のリスエル)を作りました。

- ・三島地区学校図書館協議会秋季研修会で、図書館の活用方法や図書館を授業で活用した実践の報告を図書委員会担当の教員が発表しました。



7. キャリア教育について

- ・中学校卒業後の進路や生き方について具体的に考えるために、1年生から3年生までの3年間を通して系統的な指導計画を立てて取り組んでいます。

- ・様々な人の生き方に触れ、また、大阪府の高等学校の入試制度について学習し、自らの進路について主体的に考えられるよう取り組んでいます。

- ・2年生では町内の企業の協力を得て、企業から提示してもらった課題の解決策を考え、発表する取組を通して、職業(仕事)について考え、「働くこと」への価値を見出すことを目標とした取組を行っています。将来、社会の一員として社会をより良くしようとする態度を養っています。

- ・3年生での高等学校入試に向けて、様々な情報を得て、自分で進路について考え決断する力が身につくように指導をしています。

8. 「心の教育」や規範意識の育成について

- ・1年生から3年生までの3年間を通して、「お互いの違いを認め合う人権の大切さ」や社会のルール等

について、道徳等の授業を通して、人権教育を計画して進めています。

・「世界人権宣言」、LGBTQ、アイヌの人々・ハンセン病患者・障がい者の人権、いじめ問題、部落問題学習、在日外国人の人権・国際理解、平和学習について、学年に応じて自己肯定感を高めつつ、まわりの人への理解を深め、ともに生きていける社会をめざして、取り組んでいます。

・道徳では、1年生から3年生までの3年間を通して、道徳教育の内容項目に合わせて計画して進めています。自分自身を振り返ったり、たくさんの考えや思いに触れたりしながら、心の成長につながる道徳授業を実施しています。(いじめ防止道徳、震災道徳、各学年道徳など)

9. いじめ防止・対応について

安全安心安定の二中へつなげるため、1学期に*いじめ防止授業を全学年で実施*しました。そこでは、『いじめを認知できるようになること・いじめと感じたときの具体的な行動を考えること・いじめを早期発見ができる集団になること』などについて、教員と生徒と一緒に考える時間を持ちました。島本町が発行しているいじめに関するパンフレットも配付し、校内にも掲示して「いじめになる行為」を意識するようにしています。また、各学期にいじめ防止・いごちアンケートを行った上で、全生徒対象に二者懇談を行い、聴き取りから指導まで組織として対応しています。(2学期には11月7日配付予定)。さらに、生徒のストレスに対してどのように対処するのか、SOS 発信授業として全学年実施し、スクールカウンセラーの紹介なども含めた相談体制の周知などを行っています。



今後は、生徒指導部会の教員と生徒会の生徒と一緒に『安全・安心が確保された島本二中に向けて』の具体的な求められる行動や守るべき点を考え、誰もが二中での生活に「ほっ」とできる空間づくりを推進していく予定です。

10. 「食の教育」について

子どもたちを取り巻く「食」の課題は多様化しています。日本の健康課題は生活習慣に起因するものが多く、子どもの頃からの習慣が大きく影響していると言われています。その中で学校での「食に関する指導」の重要性が非常に高まっています。食育とは、『様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること』と明記されています。(食育基本法より)その為、学校生活の中で「食に関する指導」を様々な場面で行っています。

①教科と関連した食の指導

食育は様々な教科と関連して授業を行うことができる分野です。全学年の様々な教科で、教科と関連した授業を栄養教諭が中心に行っています。

1年国語：「大根は大きな根？」

他の野菜も見てみると…



2年数学：一次方程式の利用

体が作られる中学生の時期は、たんぱく質やCaを十分にとる必要があります。しかしCaは不足しがちです。そこで井上さんは、Caを多く取る野菜を考えました。右の野菜50gでCaを112mgとるには、小松菜としらす干しをそれぞれ何gにすればいいですか？

食品名	乾燥わかめ	プロセスチーズ	しらす干し	小松菜(ゆで)	牛乳
カルシウム量(100gあたり)	780mg	630mg	520mg	150mg	110mg



3年理科：酸・アルカリの利用

通常であれば

虫菌が出した酸と唾液中の重炭酸イオンが中和される



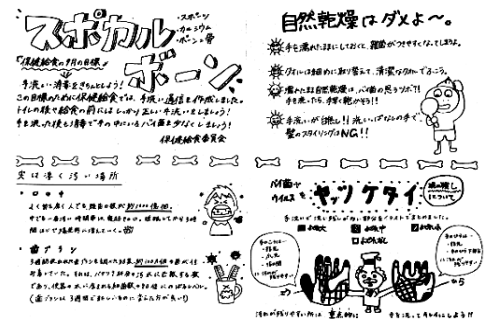
大根は大きな根？という説明文から応用させて、他の野菜はどの器官を食べているか勉強し、野菜への興味を持たせられるよう取り組みました。

一次方程式で出た答えを元に、自分たちが必要なCa量はどのくらいで、どんな食品にどのくらい含まれているのか勉強しました。

普段の生活に、酸・アルカリ反応がどう活用されているのか、今回は虫菌と中和反応について学び、こういった食生活を心がけるか振り返りをしました。

保健給食委員会では、保健と給食(=食に関わる分野)の取組みを行っています。給食の調理室の紹介動画を生徒と一緒に作ったり、放送やお便りで換気や熱中症予防の啓発を行ったりしています。

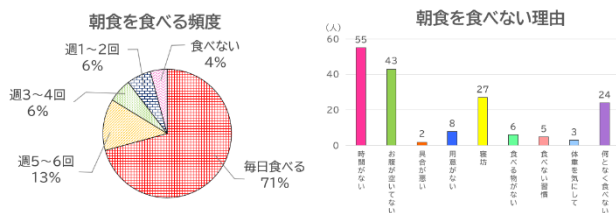
実際に生徒たちが作成したお便り「スポカルボン」→



二中の朝ご飯の喫食率は約7割で、3割の人は朝ごはんを毎日食べていないことがわかりました。そこで、今年は夏休みの宿題で朝に簡単に調理できる朝ごはんのメニューの作成を実施し、文化祭で掲示をしました。自分たちで作ろうと思えるメニューが1つでも見つかるといいなと思います。

第二中学校での食生活アンケート

毎年4月の給食ガイダンスの際にアンケートを実施



引き続き様々な分野で食と関連した取組みを実施、定着させていきたいと思っています。

11.「地域との連携」について

- ・二中は昨年度より「学校運営協議会」(地域の学識経験者、関係機関などの方による学校運営に関わる会議)を行い、地域と学校の連携に関わる取組みを模索しています。
- ・年間2回の島本町の地域清掃にクラブ単位で参加し、地域美化に取り組んでいます。
- ・部活動で、地域のイベントに積極的に参加し、地域との交流を進めています。(吹奏楽部の遥学園さくらバザー、島本町文化祭、島本町交流協会イベントへの出演、陸上部の島本ミニマラソンへの参加など)
- ・学校の取組みを通じて地域との連携を強めています。1年生は福祉学習を島本町社会福祉協議会と連携して取り組んでいます。今年度は「福祉の行き届いた島本町へ」をテーマにプレゼンテーションを行います。2年生はキャリア学習の取組みを、地域企業と連携して事業企画をプレゼンテーションする発表会を行います。3年生は地域の小学校・こども園と連携して「SDGs」をテーマにした紙芝居を制作し、直接交流する取組みを行います。

令和7年度 学校教育自己診断結果 分析

【質問項目】

1. 学校では、生徒がいきいきとした学校生活を送れるよう、学校全体で取り組んでいる。(生徒指導)
2. 学校では、生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりを推進している。(学力)
3. 学校では、ICT 機器(コンピュータやプロジェクター等)を使ったわかりやすい授業を行っている。(学力)
4. 学校は、生徒・保護者にわかりやすく、適切な評価基準を提示している。(学力)
5. 自学自習力育成のため、学校全体で取り組んでいる。(学力)
6. 学校では、読書活動に積極的に取り組んでいる。(図書委員会)
7. 学校では、生徒が自己の生き方を見つけられるよう、各学年に応じた系統的なキャリア教育を行っている。
(人権キャリア)
8. 学校では、お互いの違いを認め合う人権の大切さや社会のルール等について指導している。(人権キャリア)
9. 学校は、いじめ防止・対応の取組を組織的に行っている。(生徒指導)
10. 学校では、「食育」についての取組を組織的に行っている。(保健給食委員会)
11. 地域の方と学校が、何か取組みをしてみたいことがある。あれば具体的に。(令和7年度学校独自の質問項目)
(※各項目を主に分析する委員会)

1. 学校の生活について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 84.9%(昨年86.1%)

保護者 78.5%(昨年79.4%)

現一年 生徒 77.1% 現二年 生徒 92.4%(昨年90.8%) 現三年 生徒 84.2%(昨年84.9%)

保護者 81.4% 保護者 75.6%(昨年86.5%) 保護者 79.3%(昨年78.3%)

〈成果と課題〉

- ・全体としては昨年度から生徒の肯定群の数値は大きく変わっていない。しかし、1年生生徒が80%を下回っており、(保護者は80%を超え、ねじれの関係にある。)この原因は考える必要がある。
- ・今年度は文化祭・体育祭などの学校行事に生徒が取り組む姿から、達成感や自己有用感を得られた様子が見受けられる。日々の学校生活の充実が、楽しさに繋がっているのではないかと考える。
- ・2年生は90%を超える数値を示しており、学年間で感じる雰囲気の違いがあるか、今後教員間での情報共有をさらに進めたい。

〈方策〉

- ・学校の取組の最優先は授業であり、学校で学ぶことの楽しさをいかに作り出すかである。授業改善を進め、わかりやすく楽しい授業が生徒の学校生活での楽しさ結びつくはずである。また、学校に行きたくても行けない、授業に参加しなくてもできない不登校生が一定数いることを忘れてはならない。そうした生徒と学校との繋がりを切らないように、学校での楽しい活動を創り出していくために、校内教育支援ルーム「たけのこルーム」での取組をさらに充実させていく。
- ・生徒が楽しさを共有できる学校行事の充実を進める。今年度は体育祭で1年～3年の縦割りでの取組を進めた。生徒会活動では今後縦割りの活動をさらに計画中である。
- ・毎年、夏と冬に実施する「町内一斉清掃」へのクラブ単位での参加や、セキスイ化学の理科出前授業、2年生のキャリア学習の取組、PTAの「花いっぱい運動」など保護者や地域の様々な人々と繋がる取組で地域の方と共有できる、楽しい思い出を残す機会を設ける。そうした様々な人との肯定的な関わりを通して、褒められたり、感謝されたりすることで、生徒の自己肯定感が高まるよう仕組みを考えていく。

2. 「確かな」学力の育成について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 92.0%(昨年94.1%)

保護者 71.3%(昨年72.3%)

現一年 生徒 87.5% 現二年 生徒 99.4%(昨年96.8%) 現三年 生徒 88.0%(昨年90.7%)

保護者 76.2% 保護者 71.2%(昨年69.8%) 保護者 66.7%(昨年71.6%)

〈成果と課題〉

- ・生徒の肯定群は90%を超える高い数値で、ここ数年大きな変化はない。今年度の学力向上の学校の取組の成果であるとする。保護者の肯定群はここ数年下降傾向にある。3年生保護者の数値の低さも確認が必要である。
- ・今年度、学力委員会では授業づくりのテーマを「自分の考えを広げ、表現できる生徒の育成～探究的な学びについての研究～」として、取組を進めている。学校公開の場面で生徒の探究学習の成果を一部参観いただけた。保護者に対し引き続き情報発信を進めることが課題である。

〈方策〉

- ・昨年度より「カリキュラムマネジメント」について取り組んでいる。島本町の取組「みづまろキッズプラン」でも同じくカリマネに取り組んでいる。学年ごとに年間で研修を重ね、活動を行っているが、引き続き重点目標としてさらに実践を進める。
- ・探究学習やカリマネについてはまだまだ保護者には馴染みのないものではないだろうか。学力ということについては、従来からの生徒の知識・理解の数値の多少にイメージがいきがちである。情報発信を丁寧に行い、保護者への理解促進を積極的に行う。

3. ICTの活用について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 84.4%(昨年88.9%)

保護者 74.0%(昨年73.2%)

現一年 生徒 74.2% 現二年 生徒 93.7%(昨年90.0%) 現三年 生徒 83.7%(昨年87.1%)

保護者 69.5% 保護者 77.0%(昨年69.8%) 保護者 74.6%(昨年67.5%)

〈成果と課題〉

- ・生徒の肯定群は昨年度から下降した。1年生の数値の低さは注視すべきである。GIGA スクール構想での1人1台タブレットの配備から5年が経ち、今年度11月にタブレットの更新が行われ、タブレットのOSも含め新しいものになった。現在、その対応中であり、1年生は古いタブレットの使いにくさが不振の理由とも考えられる。
- ・タブレットの更新にあたって、これまで使えていたものが使えなかったり、これまでできなかったことができるようになったりと、教員がまずその適応を進めているところである。まず教員が使いこなせなければ、生徒もなかなか日常的に使いこなすところまでは至らない。教育委員会との連携も含めて、使いにくさを感じる状況を改善していくことは急務であるとする。

〈方策〉

- ・教師がタブレットを使い、プロジェクターでパワーポイントを使って授業することは、現在ほぼ90%以上の授業にある風景である。しかし、PPとこれまでの黒板への板書や教材・教具などとの長所・短所に応じた使い分けや二刀流的な活用までは至っていない。ICTの活用は目的ではなくあくまで手段であることを意識していきたい。
- ・生徒は自由にタブレットを持ち帰り、ドリル学習や自分の探究学習に家庭でも取り組める状況である。授業での活用を促進し、日常的にノートのように、発表のプレゼンテーションツールとして、より効果的な学習ツールであると生徒が感じられるように指導していきたい。家庭で子どもがタブレットを使っている様子が日常化することで、保護者の理解も促進したい。

4. 成績・評価について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 91.6%(昨年93.2%)

保護者 77.6%(昨年71.8%)

現一年 生徒 87.5% 現二年 生徒 97.5%(昨年95.1%) 現三年 生徒 88.9%(昨年90.5%)

保護者 81.3% 保護者 75.7%(昨年65.7%) 保護者 77.6%(昨年73.0%)

〈成果と課題〉

- ・生徒の肯定群は昨年度から大きな変動はなく90%を超える高い数値である。学校が丁寧に説明を行い、評価活動を行っている成果と考える。今後も引き続き、適正な評価について意識を高く持ち取組を進めていく。
- ・これまで絶対評価による成績で育ってきた保護者世代にとって、評価方法が3観点の観点別絶対評価となったことは、意識の隔たりが依然大きく、今後もわかりやすく評価について説明して、理解を促進することが課題である。

〈方策〉

- ・今年度より統合型校務支援システムでの成績処理の作業が本格化している。評価の方法や形式が変わったわけではない。しかし教職員がこのシステムを使いこなせるようになるため、今後も研修等を重ねる必要がある。教職員の業務軽減を進め、複数での点検を丁寧に行い、ミスのない評価になるよう進めていきたい。
- ・生徒にとって、評価はここまでの学びを確認し、到達度を測り、教員からの評価で自己肯定感を高め、次の学びへのモチベーションを高めるものでなくてはならない。評価が教員と生徒をつなぐ、学びのコミュニケーションツールとなるよう、教員は評価活動の研究を進める。

5. 自学自習について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 69.7%(昨年69.7%)

保護者 56.6%(昨年55.4%)

現一年 生徒 71.3% 現二年 生徒 77.5%(昨年77.6%) 現三年 生徒 59.3%(昨年60.9%)

保護者 57.6% 保護者 64.9%(昨年55.2%) 保護者 46.0%(昨年46.0%)

〈成果と課題〉

- ・例年、生徒・保護者ともに最も肯定群の低い項目であり、今年度も最も低い数値を示している。引き続き取り組んでいくべきであるが、「自学自習」という概念の認識について、生徒・保護者・教員の認識の齟齬があるとも考えられる。
- ・昨年から大きな数値の変動は見られない。3年生の生徒・保護者の数値の低さは、考察を深める必要がある。

〈方策〉

- ・懇談などでの話から、保護者が持つ家庭学習の状況改善への関心は高い。子どもがすすんで家庭で学びに向かうモチベーションをいかに高めるかを考える必要がある。単に宿題や課題を出す、ということでは解決できない。生涯学びに向かう姿勢を義務教育の段階でいかに身につけさせるかを考える必要がある。
- ・学校での成績・評価は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学びに向かう態度」の3観点で評価をしている。自学自習という、生徒の学びへの主体性について評価を通じて高めていく仕組みを作っていきたい。

6. 読書活動の推進について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 85.4%(昨年90.6%)

保護者 68.4%(昨年63.9%)

現一年 生徒 73.3% 現二年 生徒 98.7%(昨年95.1%) 現三年 生徒 82.0%(昨年84.9%)

保護者 64.4% 保護者 71.6%(昨年66.7%) 保護者 68.2%(昨年52.7%)

〈成果と課題〉

- ・生徒の数値が5%下がっている。1年生の数値の低さは注視すべきである。図書委員会を中止とした読書の取組は毎年工夫をして行っており、朝の読書など日常の読書週間の定着に課題を見るべきである。
- ・「図書だより」を発行し、保護者への積極的な情報発信に努めてきた。保護者の肯定群の上昇はそうした取組の成果であると考えられる。

〈方策〉

- ・図書委員会では読書に関わるイベントの開催を推進しており、これを継続して行う。今年度は「POP コンテスト」への出展し、表彰を受けた。読書に関わる様々な取組を通じて、生徒の読書への意識をさらに高めていきたい。
- ・前述のとおり、保護者への情報発信を引き続き進める。季節のイベントなどを図書委員会では企画・運営をしており、図書委員会生徒の頑張る様子をさらに積極的に発信していきたい。

7. キャリア教育について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 85.3%(昨年89.7%)

保護者 61.7%(昨年57.2%)

現一年 生徒 70.6% 現二年 生徒 94.9%(昨年93.2%) 現三年 生徒 88.9%(昨年87.1%)

保護者 49.2% 保護者 63.5%(昨年53.1%) 保護者 71.4%(昨年52.7%)

〈成果と課題〉

- ・生徒の肯定群については昨年度より微減である。保護者数値は全体として微増であるが、3年生保護者の急増と1年生保護者の数値に低さは大きな課題であると考ええる。
- ・保護者の「わからない」の回答が本アンケート最大の24.5%(昨年度は29.4%)となっており、保護者の理解促進が引き続き課題である。

〈方策〉

- ・生徒の比較的安定した結果は学校の取組がしっかりと生徒の意識につながっているからだと考えられる。現在の取組を継続して行う。2年生では職場体験に代わる取組として企業と連携したキャリア学習の取組を進めている。12月にはその発表会も控え、さらにこれらの情報を積極的に発信していく。
- ・保護者の意識として、「キャリア教育」が職場体験や高校進学などの職業・進路指導に終始している状況がある。1年生の数値の低さはその部分の現れであろうか。学期ごとに行っている「キャリアパスポート」など「生き方」を考える取組を充実させ、保護者も巻き込みながら、その意識を高めていきたい。

8. 「心の教育」や規範意識について

〈結果〉(肯定群の%)

肯定群 生徒 93.5%(昨年94.9%)

保護者 79.5%(昨年76.4%)

現一年 生徒 90.3% 現二年 生徒 98.7%(昨年94.4%) 現三年 生徒 90.5%(昨年95.0%)

保護者 79.6% 保護者 78.4%(昨年72.9%) 保護者 81.0%(昨年79.7%)

〈成果と課題〉

- ・ここ数年生徒の肯定群は90%以上の高い数値を保っている。保護者の数値も上昇が見られた。校内の人権・キャリア委員会を中心に3年間の人権学習のカリキュラムに基づいて取組を進めている。その定着が生徒の結果の結果につながっている。
- ・12月に「デートDV」に関する人権講話の実施予定である。日々の学校生活で生徒のコミュニケーションの中には生徒どうしが人権に触れるような悲しい言葉を発することもある。人権学習を一過性のイベントにせず、日々の日常生活に落とし込んでいくことが課題である。

〈方策〉

- ・各学年の校外学習や3年生の修学旅行にあわせて行う、異文化共生や平和学習など様々な人権課題に触れる現在のカリキュラムを継続して行う。こうした人権学習のカリキュラムをこなすだけではなく、生徒が「自分ごと」として意識できるような取組を生徒会などと連携して実施していく。
- ・今年度は道徳講演会として、学校公開で落語講演会を実施し、保護者にも参観していただいた。この道徳では「落語」という伝統文化に触れ、それを尊重する態度を養うとともに、「人を傷つけない笑い」という人権的なテーマがあった。生徒・保護者が共通して受講するなど、理解促進の仕掛けを引き続き考えていく。

9. いじめ防止・対応について

〈結果〉

肯定群 生徒 93.5%(昨年94.8%)

保護者 73.4%(昨年67.2%)

現一年 生徒 91.9% 現二年 生徒 98.2%(昨年95.1%) 現三年 生徒 89.6%(昨年95.0%)

保護者 76.2% 保護者 68.9%(昨年62.5%) 保護者 76.2%(昨年70.2%)

〈成果と課題〉

- ・ここ数年90%以上の高い水準を保っている。「8. こころの教育」と同様、学校が取組が生徒の意識に定着しているからと考える。保護者の数値にも上昇が見られ、定期的に「いじめ防止・いごこち向上アンケート」を実施するなど、学校取組への理解が促進されているからと考える。
- ・生徒の肯定群が90%以上だが、いじめ事象の発生は「0件」ではない。理解が高くとも、いじめが発生している状況には注意が必要であり、予防的な取組を進める必要がある。

〈方策〉

- ・意識の高い生徒たちであるから、自分たちの問題だとして主体的にそれを改善する方法を考え、取組を進める力があるからと考える。生徒会や学級委員長など、生徒の代表者とも課題を共有し、みんなの学校をみんなでよりよい場所にしていく意識を高める取組を推進する。
- ・近年のSNSの状況などから、いじめの「見えにくさ」は深刻化している。学期ごとに実施している「いじめ防止・いごこち向上アンケート」や日々の生徒の様子を観察し、一人ひとりの生徒の小さな変化も見逃さないという意識をさらに高める必要がある。保健室やスクールカウンセラーも、教師が気付いていなかった生徒の声をキャッチし、状況把握の大きな助けになっている。家庭との連携をさらに進めながら、いじめの根絶を進めていく。

10.「食の教育」について

〈結果〉

肯定群 生徒 89.0%(昨年89.0%)

保護者 71.5%(昨年62.2%)

現一年 生徒 80.9% 現二年 生徒 98.7%(昨年91.4%) 現三年 生徒 86.1%(昨年87.8%)

保護者 71.2% 保護者 71.7%(昨年64.6%) 保護者 71.5%(昨年54.1%)

〈成果と課題〉

- ・保護者の数値が大きく上昇した。昨年度からの食育の取組の積極的な情報発信の成果であると考え。
- ・保健給食委員会を中心に食育の取組を進めている。生徒・保護者・教員を巻き込んだ「朝－1グランプリ」など、工夫した取組を実施した。
- ・栄養教諭が様々な教科と「食育」を軸にコラボレーション授業を実施している。この取組はカリキュラムマネジメントの一環ともなっており、本校の授業の特色の一つであるといえる。

〈方策〉

- ・保健給食委員会の活動が毎年、新しい取組にチャレンジし、着実に実績を積んでいる。引き続き生徒と教員が協同して課題解決への取組を創出していきたい。
- ・情報発信としての「食育だより」や通信・たよりに加え、前述の「朝－1グランプリ」といった、「食育」を軸に保護者も巻き込んだ取組は今後も継続していきたい。また、栄養教諭が「食」を通じ、栄養指導やアレルギー対応など生徒を包括的に見守っていることも大きな意味がある。

11. 地域と学校の連携について

〈生徒の意見より〉

(1年生)

- ・雑草刈りボランティア ・ゴミ拾い ・地域清掃 ・畑をやっている方との協力で(できれば)野菜採取体験
- ・地域の方と、交流会や運動会、誰でも楽しめる遊びなど
- ・あんまり、地域の方と関わる機会が少ないから、イベントなどをしたら、もっと関われると思います。
- ・水無瀬川の自然について水無瀬川を保全している人の話を聞きたい
- ・ゴミ拾いなど協力してできる取り組みをしたい ・島本町ゴミ拾い ・ポッチャ ・高齢者もできるスポーツ
- ・町内一斉清掃 ・草むしり ・町内清掃 ・町内のそうじ
- ・水無瀬川の川瀬でゴミ拾い活動(生徒会で考えてみてほしい) ・ゴミ拾いなどの活動をしたい。
- ・島本町でゴミ拾いイベントをしてみたい。 ・ボランティアの人達とかと一緒にゴミ拾いなどをしたい
- ・ゴミ拾い 島本町内をゴミ拾い ・地域の方とゴミ拾いをする取り組みがいいと思う。
- ・たまに川とか汚い時があったりするので町内のみんなでゴミ拾いしてみたい
- ・協力してゴミ拾いしたり、島本町の役に立てるなら、やりたい
- ・地域の方と交流できるイベントをしたいです。
- ・ボランティア活動がしたい。(ゴミ拾い、ユニセフ活動など) ・挨拶など出来る活動をしたい。
- ・ご飯フェスなどしたい。
- ・島本町の人々でなにかのつながりや生徒たちで島本町民との関わりをどうしたら関わりが広がるのかを考えたりすること。 ・町内一斉清掃。

(2年生)

- ・ゴミ拾い ・ゴミ拾いボランティア ・スポーツ ・町内清掃など ・地域の人達とゴミ拾いなどをしたい
- ・地域の人たちとスポーツ祭などをしてみたいなど考えている。他にはゴミ拾いのボランティアなど
- ・観光に来た外国人の方々にいろいろなことを教える ・ゴミ拾いとかスポーツしたりしたい

・ゴミ拾いを部活とクラスでやりあい ・ゴミ拾い「学校内」
・最近街を歩いてると、ゴミが落ちているのを見かけたからゴミ拾い活動などしたい
・昔の遊びを教えてもらおう交流会 ・お米を作りたい ・交流会 ・外で豚汁とか作って一緒に食べたい
(3年生)

・ゴミ拾い ・ボランティアをしてみたい ・ボランティア ・ゴミ拾い ・地域の人とあそぶ
・交流会などがあればいいと思います。 ・大縄 ・めんこ ・地域の人との交流活動として簡単なレクリエーション
・ゴミ拾い ・草刈り ・食事会 ・ボランティア活動 ・交流 ・かくれんぼ ・地域の場所を決めてビッグ鬼ごっこ
・遊び ・地域清掃 ・町内清掃
・地域の方に島本の山の生態など、地域に密着したことについてぜひ教えていただきたい。
・スポーツ大会とか学校交流 ・お年寄りとともに体育祭 ・雑草抜き。 ・お掃除ボランティア
・さつまいも掘り ・みんなでクイズなどをして交流を深める ・竹細工を作る
・おじいちゃんおばあちゃんたちと折り紙 ・釣りや木、竹を使ったものづくりなど、自然を利用した遊びをしてみたい
・水瀬は、雑草が多いから、一緒に草むしりとかをして、水無瀬をきれいにして、地域の人ともコミュニケーションが取れる。

〈保護者の意見より〉

(1年生)
・先輩たちの生き方などを話し機会が欲しい
・社協の動画編集ボランティアがあるので、体育祭などの動画撮影編集などを請け負ってもらい、行事などを全体的な動画を(保護者限定でも)見られるようになるとうれしいです。
・水無瀬神宮 百人一首 島本の歴史
・部活等の地域の方や大学生の外部講師やボランティアに参加されるのはよいと思う
・テスト前など、解らない所を、聞いて教えてもらえる時間があれば有り難い。

(2年生)
・登下校の見守り・地域の歴史の勉強・町内店舗のスタッフさんや、高齢者(シルバーさん)、交番の警察官との交流などがあると身近な知り合いが増えて安心。
・英会話 ・クラブ活動で外部顧問の方に専門知識を教えて欲しい。
・企業見学、町内清掃、米作り体験など
・放課後などの時間に学習をサポートできる方がいればありがたいのかと思います。ただ、子が放課後に学習を望むかわかりませんが。

(3年生)
・地域の課題や問題について地域と学校が協力して考える機会があればいいと思います。